

平成 28 年産「豊水」の果実成熟特性予測について

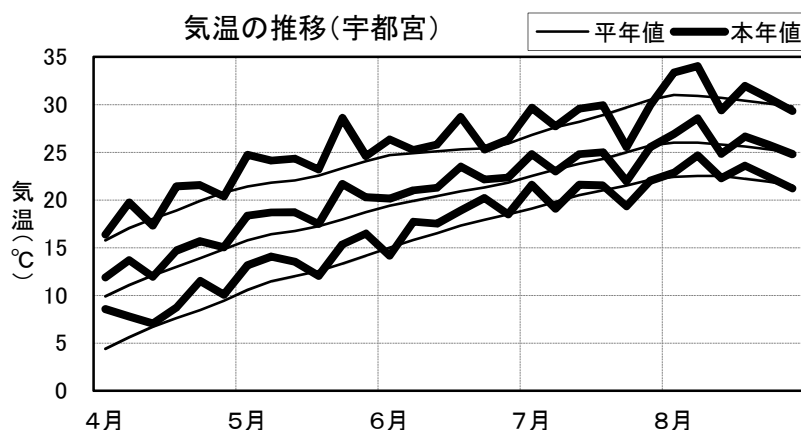
平成 28 年 9 月 5 日
 栃木県農政部経営技術課

1 生育期における気象経過

気温は、4～6月は平年よりも月平均で1～2℃高く、7～8月は平年並であった。

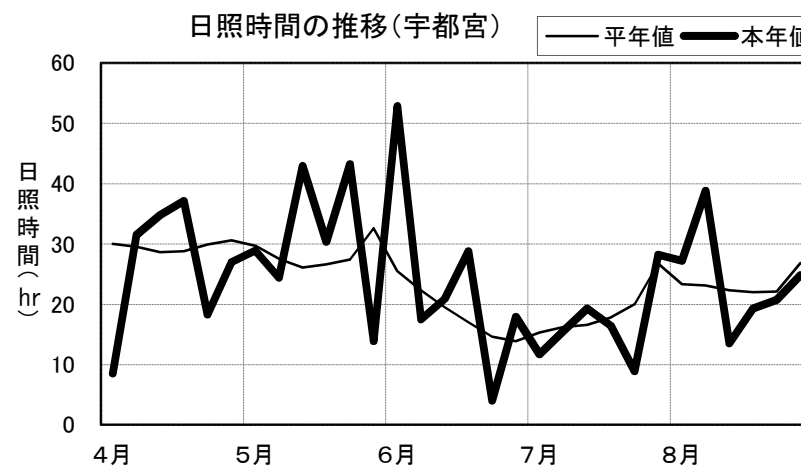
日照時間は、4月及び7月は平年よりも1割程度少なく、5月は1割程度、6月は3割程度それぞれ多かった。8月は平年並であった。

降水量は、4月は平年よりも1割程度多かったが、5～6月は4割程度、7月は6割程度少なかった。8月は中下旬の台風の接近や大雨等により平年の約2.2倍とかなり多かった。



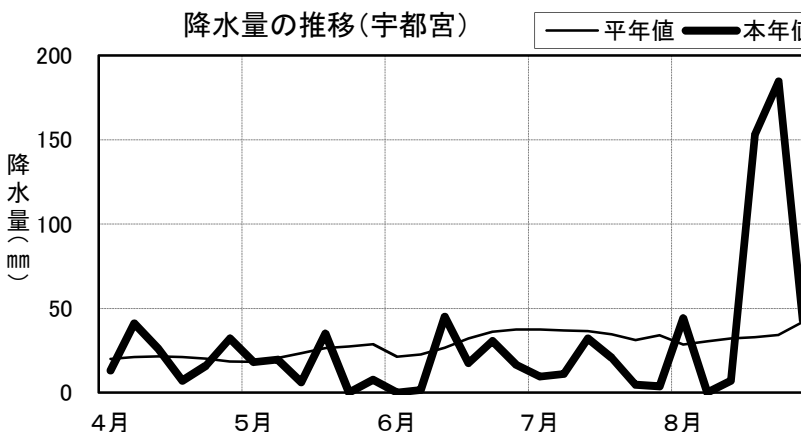
平均気温

月	今年値	平年値	平年差
4月	13.8℃	12.5℃	1.4℃
5月	19.2℃	17.1℃	2.1℃
6月	21.7℃	20.6℃	1.1℃
7月	24.2℃	24.1℃	0.1℃
8月	26.3℃	25.6℃	0.6℃



日照時間

月	今年値	平年値	平年比
4月	157 hr	177 hr	89%
5月	184 hr	170 hr	108%
6月	142 hr	113 hr	126%
7月	100 hr	113 hr	89%
8月	144 hr	140 hr	103%



降水量

月	今年値	平年値	平年比
4月	135 mm	122 mm	111%
5月	86 mm	145 mm	60%
6月	111 mm	176 mm	63%
7月	81 mm	210 mm	39%
8月	432 mm	200 mm	216%

* 平年値は 1981～2010 年の平均

2 「豊水」の果実成熟特性予測

農業試験場の予測では、開花後の気温（満開日から38日間の平均気温）が高く、「収穫前60日～41日の平均気温」が低く推移したことから、「みつ症」及び「す入り」が「中」程度発生すると予測されている。なお、満開後130日の果実調査では、「比重」は全体的に「少発年」（平成22年）の数値を中心に数値がばらついているが、「硬度」はすべての生育診断圃で「多発年」（平成5年）と同程度の低いレベルであった。

以上のことから、本年は収穫時に「みつ症」及び「す入り」の発生に十分注意する必要がある。

※「みつ症」及び「す入り」の発生程度は「0：無 1：微 2：少 3：中 4：多」の5段階で評価している。

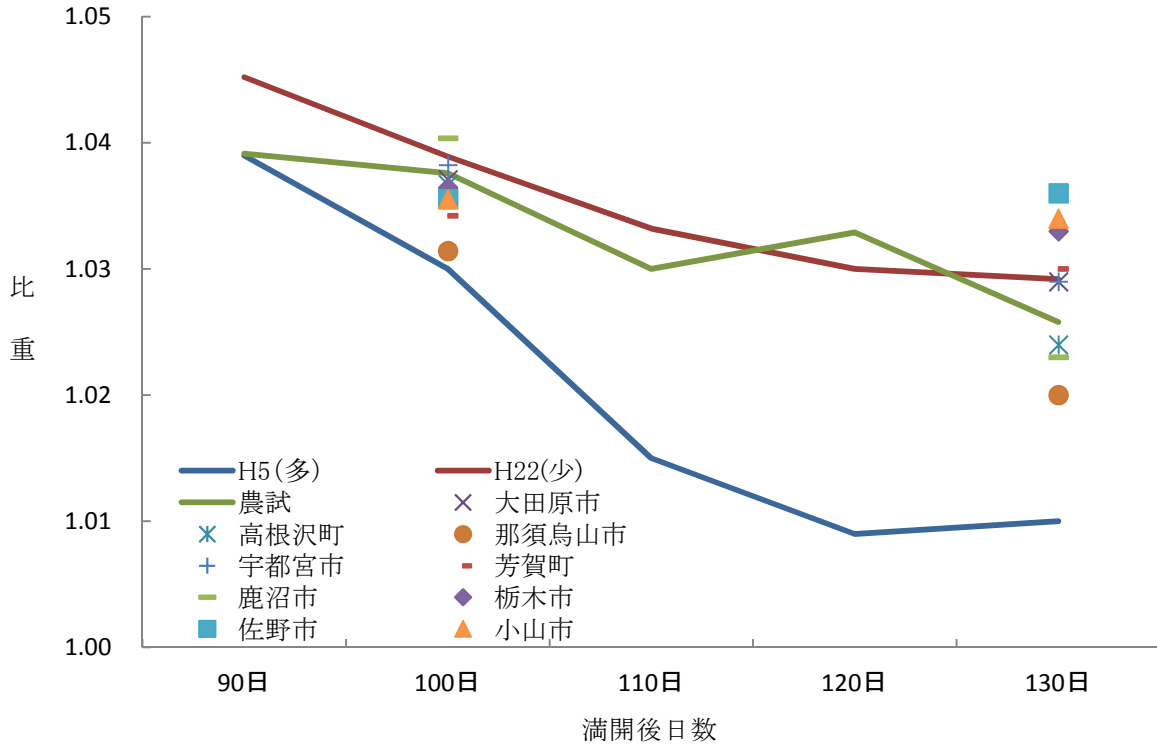


図1 果実比重の推移

果実比重データ					
調査地点等	満開後日数				
	90日	100日	110日	120日	130日
H5(多)	1.039	1.030	1.015	1.009	1.010
H22(少)	1.045	1.039	1.033	1.030	1.029
農試	1.039	1.038	1.030	1.033	1.026
大田原市		1.037			1.029
高根沢町		1.037			1.024
那須烏山市		1.031			1.020
宇都宮市		1.038			1.029
芳賀町		1.034			1.030
鹿沼市		1.040			1.023
栃木市		1.036			1.033
佐野市		1.036			1.036
小山市		1.036			1.034

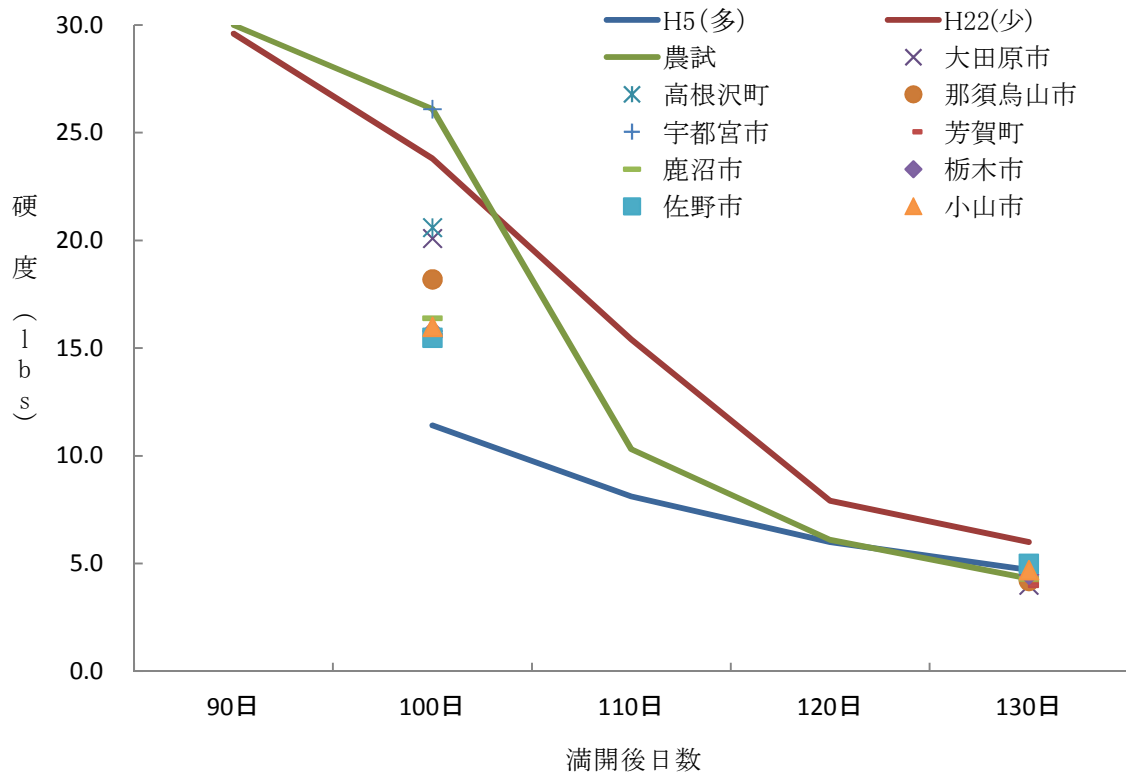


図3 果実硬度の推移

果実硬度データ					単位: lbs
調査地点等	満開後日数				
	90日	100日	110日	120日	130日
H5(多)		11.4	8.1	6.0	4.7
H22(少)	29.6	23.8	15.4	7.9	6.0
農試	30.0	26.1	10.3	6.1	4.3
大田原市		20.1			4.0
高根沢町		20.6			4.7
那須烏山市		18.2			4.2
宇都宮市		26.1			5.0
芳賀町		15.6			4.0
鹿沼市		16.4			4.3
栃木市		15.8			4.5
佐野市		15.5			5.0
小山市		16.0			4.7

3 今後の栽培管理

「豊水」の「みつ症」や「す入り」は、収穫初期に、古い側枝で葉数の少ない短果枝上の「日焼け果」に発生が多いので、収穫時の果実確認を徹底する。また、過熟になると発生が多くなるので、収穫が遅れないように注意する。

また、本年は県中北部において、「幸水」で黒星病の発生が多かった。5月から8月上旬まで平年より降雨が少なかったため、果実での発病は比較的少なかったが、ほ場内の病原菌密度は高いと推測される。したがって、収穫後の秋期防除と落葉処理を徹底する。

